

キャラクター名
ルフト・アインセル

プレイヤー名

種族	エルフ	種族特徴	暗視、剣の加護/優しき水		
生まれ	魔術師	性別	男	年齢	14
冒険者Lv	8	経歴	濡れ衣を着せられた事がある		
経験点	1880		大切な人と生き別れている 大きな嘘をついている(いた)		

能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス
器用度	7	7		24	4
敏捷度	4	6		20	3
筋力	6			8	1
生命力	5	2		9	1
知力	8	9		31 + 1	5
精神力	7	5		26	4

技能	Lv.	技能	Lv.
ソーサラー	8		
コンジャンラー	4		
セージ	5		
ミスティック	6		

戦闘特技			
鋭い目	2120 p		p
魔法誘導	223 p		p
魔法拡大/数	226 p		p
鷹の目	219 p		p
魔法収束	1B39 p		p
	p		p
	p		p
	p		p
	p		p

言語	会話	読文
エルフ語	○	○
交易共通語	○	○
汎用蛮族語	○	○
魔動機文明語	○	○
魔法文明語	○	○
妖魔語	○	

練習/呪歌/騎芸/賦術		
パークメイクル		
幸運は富をもたらす		
幸運は知恵を助ける		
幸運は勝ち戦を授ける		
星は剣を導く		
襲い掛かる敵の幻		
光る星は弱点を暴く		

技能	基本レベル	基本命中力	基本回避力	基本追加ダメージ
ファイター	0			
グラップラー	0			
フェンサー	0			
シューター	0			

鎧と盾		必要ランク	筋力	回避力	防護点
鎧	ソフトレザー		7		3
盾	ラウンドシールド		8		1
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)					
回避技能	合計値				0 4

武器	用法	必要筋力	命中修正	命中力	C値	追加ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
スパイラルロッド 【ルシェロイネ魔導術】における魔法の発動体	1H	1	1	2d+ 1	12	0	6										
				2d+													
				2d+													
				2d+													
				2d+													
				2d+													
				2d+													

制限移動	通常移動	全力移動	回避	防護点	HP
3 m	20 m	60 m	2d+ 0	4	35

魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力
真語魔法	8	13			
操霊魔法	4	9			
深智魔法	4	13			

魔物知識/弱点	先制力	生命抵抗	精神抵抗	MP
2d+ 10	2d+ 0	2d+ 9	2d+ 12	64

装備品	説明
頭 とんがり帽子	魔法の品。「魔物知識判定」+1
耳 耳飾り	宝石製。母親が残していったものらしい。
顔 ひらめき眼鏡	見識判定、探索判定に+1
首 ヴェルムタリスマン	【アルヴェルム真魔組式術】用の装飾品
背中 インテリアマルサク	探索・魔物知識・危険感知・畏感知の判定+1
右手 光魔の印	【ティルダンカル古代光魔党】用の装飾品
腰	
足 勇者の証：心	出目に「5」「6」が含まれなかった場合、追加でもう1個サイコロを振れる。
その他 知性の指輪	

装備品	説明
左手	
マフラー(部位：首)	兄から貰った大事なものの。肌身離さず着けている

その他メモ	自動失敗
長身が特徴的なエルフという種族でありながら、何故かいつまで経っても身長が低い事や、あまり体が強くない事がコンプレックスになっていた。物心付いた時から傍に両親という存在はおらず、何でも魔術師らしく、幼い頃に突然失踪したのだという事実を聞かされたくらいである。傍にいたのは歳の少し離れた、神官となった兄だけであった。家事も一通りこなせて、何より身長の高い神官の兄を羨ましく思う事が多かったが、兄はいつでも気にするなと言ってくれた。だが、そんな態度が気に入らず、逆に劣等感を募らせていつてしまった。そのせいで事ある毎に、兄を大嫌いだと言い続けてしまうようになった。それがいつしか自分の本心なのか分からなくなり、兄を見返してやろうとして思い至ったのが、ソーサラーとコンジャンラー技能の取得であった。天賦の才ではなく、あくまで努力によって勝ち得たもの。それを兄はめいっぱい褒めてくれた。それを素直に喜ばず、家を飛び出してしまふ。	チェック □□□□⑤ □□□□⑩ □□□□⑱ □□□□⑳ □□□□㉑ □□□□㉒ □□□□㉓ □□□□㉔ □□□□㉕
湖畔の集落に住んでいたのだが、集落から離れたところまで足を運んで、闇雲に魔法の練習をしていた。気が付いた頃には既に夕暮れになっていたのだが、そこで運悪く、移動中の行商人の貨物を魔法生物たちが襲う現場に遭遇してしまう。何とか護衛が沈黙に成功したものの、魔法生物が暴れていた原因は、何らかの魔法を受けたからだという。近くで魔法を扱っていたルフトは、真っ先に疑いの矛先を向けられて	□□□□⑥ □□□□⑪ □□□□⑲ □□□□㉑ □□□□㉒ □□□□㉓ □□□□㉔ □□□□㉕

